

## 1 学校教育目標

○けんこうな子…心身ともに健康な子を育てる ○助け合う子…情操豊かで人を大切にする子を育てる ○よく考える子…よく考え進んで学ぶ子を育てる

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在校生にとって … 学校生活に希望をもち「わくわくする学校」</li> <li>○卒業生にとって … 卒業したことに「誇りをもてる学校」</li> <li>○保護者にとって … 子どもを通わせて「安心感がもてる学校」</li> <li>○地域にとって … 地域の宝だと「大切に思う学校」</li> <li>○教職員にとって … 心を一つにして「チームワークを発揮できる学校」</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1秒の言葉 … 「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」等、TPO に応じて自分の思いを相手に伝えることができる子</li> <li>○自己肯定感 … 「自分で考え、自分で判断し、自分で行動できる」をめざして自他共に認めあえる子</li> <li>○3つの無言 … 「放送時静止」「無言ゾーン」「無言清掃」を守って、安全安心な生活習慣を培える子</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3つの『わ』 … 互いに切磋琢磨し、質の高い(「わくわくする授業」「わかる授業」「わらいのある授業」)を実践できる教師</li> <li>○チームワーク … 発想の転換ができ、それぞれの役割を発揮しながら本来のチームワークを結集できる教師</li> <li>○働き方改革 … 自らのルーティンワークを確立し、懸命にではなく賢明に働き仕事と家庭・健康を両立できる教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

- 児童 … 素直で明るく連帯感をもって学校生活を楽しんでいる。学習面では基礎学力の定着が図られている。発達障害的集団不適応児童対応が急務。
- 教師 … 足立スタンダードを元に充実した授業を実践している。初期対応と情報共有を重視、組織としてチームワークを大切に学校力向上に従事している。
- 保護者 … 本校教育活動に対して理解があり協力的な家庭が多い。PTA 会長を筆頭に本部役員は献身的な協力姿勢である。
- 地域 … 7町会ある。どの町会も本校に対して愛着と協力的態度に満ちている。各種行事や催し物を復活し、子どもの育成を大切にしている。

### 【前年度の成果と課題】

#### ○重点的な取り組み事項－1(学力向上プラン)

- ・4月区学力調査通過率は、国語 88.8%→87.1%，算数 92.9%→87.7%と下がってはいるが、区内では上位をキープし、目標値を大きくクリアしている。
- ・学力向上アクションプランに示した6項目中、◎:十分達成が3項目、○:おおむね達成が3項目となり、学力向上の取組として十分な成果を出した。

#### ○重点的な取り組み事項－2(豊かな心の育成)

- ・「関原小 心はひとつ！」のキャッチフレーズを柱に団結感が醸成され、異学年や特別支援学級との交流でさらに一体感・連帯感が育まれている。
- ・「一秒の言葉」の励行を学校経営方針の第一に掲げ、朝礼を筆頭に事あるごとに啓発した結果、TPOに応じて挨拶とともに言葉で伝えられる児童が増えている。
- ・アンケートからも「早寝 早起き 朝ごはん」が今一步である。また、いじめや不登校解消に向けて、組織的かつ家庭との連携強化を図っていくことを継続する。

#### ○重点的な取り組み事項－3(体力向上)

- ・都体力テスト結果から、ソフトボール投げ、シャトルラン、反復横跳びは良好。握力、長座体前屈(柔軟性)、50m走(走力)に課題があり対策を講じる必要がある。
- ・サーキットトレーニングから筋力トレーニングを取り入れた成果として、児童の体力運動機能の向上が全体的に図られている。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○

## 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△ ●	
基礎学力の定着率向上と授業の質の向上を図る。		年度当初 両教科 84%以上 年度末 両教科 84%以上		4月：国語 91.1% 算数 92.6% 10月：国語 98.3% 算数 95.2%		・2教科ともに高い定着が図られ安定している。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6.(1)へ記載		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎ ○△●
1 新規	授業力向上 「授業改善」	全教員	通年 授業中	【全教員】 ○足立スタンダード虎の巻勉強会及び活用 ○教員自らの過去問取組 ○SP表分析と考察 ○学年伝達会（年3回） ○教科指導員専門員指導 ○大仙派遣教員による勉強会（2ヶ月に1回）	・単元テスト 正答率 ・SP表分析 ・学年伝達会 ・授業観察	授業観察により 評価B以上の教員が8割以上	SP表や4層分析を活用して全教員が授業改善を図ったことによりC層とD層の通過率が大幅に向上した。大仙派遣教員による勉強会を実施し足立スタンダード虎の巻を徹底。授業観察により評価B以上の教員が8割以上を達成。	年度当初に教員自ら過去問に取り組む時間を設定した。児童がつまづく可能性の高い問題を把握して授業改善に活かすようにした。大仙派遣教員4名による勉強会も効果が大きく学校全体で足立スタンダード虎の巻が浸透したことで学力向上につながっている。	◎

2 継続	授業力向上 「ICT機器 活用」	全教員	通年 授業中	【全教員】 ○ICT機器を活用した、より 質の高い授業の実践 ○新規採用者及び転入者 へのレクチャー	・週案簿記録 ・巡視確認 ・ミニ研修会 (月1回)	1日2回以上の ICT機器を活用 した授業の実施	1日2回以上のICT機器 活用授業を徹底。全教 科にわたり活用頻度 が著しくあがった。児童 の個別最適な学びを支 えるツールとしてICT機 器を活用するようになり その能力が著しく向上 した。5年児童のICT マスターは80名中75 名(94%)が合格して 急増した。	授業でのICT機器活 用は定着。お昼の放送 や児童集会の企画で 共同編集をするため にスプレッドシート を活用したり各学級 の特別活動で児童 が活用したりして授 業以外の場面でも 教員・児童ともに 活用率が著しく向 上している。	◎
3 継続	朝学習 (パワーアップ タイム)	各学年 ・国語 ・算数	週3回 始業前 15分	【全教員】 ○学習内容の復習、定着 ・AIドリル、自作教材	・漢字テスト ・東京ベーシ ックドリル	年間を通じ、全 学年漢字テスト 正答率を80%以 上に保つ	前期まとめ漢字全学 年平均正答率は78.3% 、90点以上の割合は 64%だった。各学 年向上が見られる が、それぞれ80% 、70%を保ちたい。	今年度より他学年 の教員がテストを 作成する取組を始 めて難易度が高 くなったため正 答率が下がった。 どのような問題 にも対応できる 力を育てていく ことが課題である。	○
4 継続	放課後補習	各学年補 習必要児 童 ・国語 ・算数	通年 放課後	【全教員】 ※副担 制度活用 ○基礎的基本的な 内容の定着、現学 習単元の補充 ・既習内容プリント 、AIドリル	・日々の授業 ・単元テスト ・到達度確認 テスト	2月の確認テ ストで国語・算 数共に通過率を 83%以上に保 つ	R7通過率 4月 → 2月 (国語) 2年 90.3%→95.8% 3年 85.5%→85.0% 4年 95.1%→98.9% 5年 89.3%→90.5% 6年 95.0%→85.3% (算数) 2年 97.2%→95.8% 3年 90.3%→91.5% 4年 95.1%→92.8% 5年 93.3%→87.5% 6年 85.2%→87.1%	時間内見直し、空欄 なく最後まで粘 り強い取り組み 指導とピンポ イントな個票分 析を継続した成 果。補習時の他 教師の協力体制 強化も要因。次 学年への指導重 点ポイント引継 ぎ会は大変有効 な内容と自負す る。	◎
5 継続	校長室検定	2～6年 ・九九 5年生 ・23区 6年生 ・都道府 県	通年の 朝学習 中休み 昼休み 放課後	【指導者体制】 管理職・学力向上 委員会 【取組のねらい・ 目的】 基礎的基本的な 事項の定着 【使用教材】 既習内容のプリ ント 合格証・免許状	・校長室検定 ・教室での表彰	九九は各学級 95%以上 漢字・23区・都 道府県は各学級 80%以上の合 格者をめざす	九九 97%達成 (R6=97%) (算数) 2年 95% 3年 97% 4年 97% 5年 98% 6年 99% 23区正答率 7月 → 2月 5年 90.3%→86.1% 6年 90.5%→84.4% 都道府県 7月 → 2月 5年 90.7%→89.8% 6年 91.2%→83.0%	校長室九九検定 の継続とその徹 底がケアレスミ ス減少につなが った。23区と都 道府県の暗記は この時期の脳を 鍛錬すること につながり全 体的向上につな がった。	◎

6 継続	夏季補習 教室	各学年 10名程度 の対象者 ・国語 ・算数	夏季休 業中 10日間	【指導者体制】全教員 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的事項の定着 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル 等	到達度確認テ スト	2月の確認テスト で国語・算数共 に通過率を3%以 上アップさせる	R7 正答率 4月 → 2月 (国語) 2年 85.8%→93.9% 3年 85.5%→77.2% 4年 84.0%→88.5% 5年 70.9%→77.4% 6年 78.3%→72.3% (算数) 2年 91.9%→95.1% 3年 88.3%→79.7% 4年 81.0%→88.3% 5年 82.9%→72.3% 6年 72.8%→78.9%	サマースクール10回実 施。区調査個票分析か ら抽出児童を重点的に 不得手な単元をピンポイ ントに全職員で指導。全 学年で正答率は飛躍的 に上昇。 AIドリルの活用は常に区 内上位をキープするほど 使用率アップ。効果が出 ていると分析する。	○
---------	------------	------------------------------------	-------------------	---	--------------	--	--	--	---

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の豊かな人間性を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	学校の一体感がより一層育まれ、自己肯定感と帰属意識がより培えた。	特別支援対応が必要な児童への対応。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「1秒の言葉」の励行	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査の「挨拶」の項目で90%以上の児童が肯定的回答</li> <li>保護者アンケートの「挨拶」の項目で80%以上が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はい。ありがとう。ごめんなさい。」を基本とした挨拶等、自分の思いを相手に伝えることを学校経営目標の柱とする</li> <li>教職員や学年児童輪番による毎朝の挨拶運動の実施</li> </ul>	「挨拶」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 94.2%】(R6=93.6%) 1年 89% 2年 96% 3年 92% 4年 93% 5年 99% 6年 97% [保護者] Q:「児童はよく挨拶をしている。」 A:79.6%(R6=80.0%, R5=85.6%) ・想いを相手に伝える大切さが浸透定着。	学校経営方針の核として、TPO に応じて「1秒の言葉」を相手に伝えることが定着。児童が輪番で行う挨拶運動も功を奏している。来校者への挨拶の励行が課題。	◎
「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」を目指した自己肯定感の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査の「自己肯定感」の項目で80%以上の児童が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教育活動に賞賛による啓発指導の取り入れ。(表彰朝礼)</li> <li>「3つの無言」を遵守し、安全安心な生活を送る習慣の継続</li> <li>行事への主体的な関わる機会の設定と事前事後指導の実践</li> </ul>	「自己肯定感」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 88.2%】(R6=89.2%) 1年 90% 2年 86% 3年 87% 4年 87% 5年 95% 6年 82% 「3つの無言遵守」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 94.4%】(R6=93.5%) 1年 96% 2年 93% 3年 92% 4年 97% 5年 94% 6年 91%	90%の児童が自他の良さを認め合い、善悪の判断を心掛け、安全で安心な学校生活が送れていると自覚できている。特に表彰朝会にて、その成果が大きく表れている。	◎
集団帰属意識の向上 (異学年活動・特別支援学級との交流活動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年における交流活動の実践100%達成</li> <li>意識調査の「協力的態度」の項目で80%以上の児童が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お誕生日給食会</li> <li>表彰朝会</li> <li>異学年交流活動</li> <li>特支学級と通常学級の交流</li> <li>幼保小連携交流</li> <li>運動会、学芸会</li> </ul>	「協力」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 96.43%】(R6=95.3%) 1年 98% 2年 100% 3年 92% 4年 94% 5年 99% 6年 94% ・お誕生日給食会定着。 ・運動会、学芸会、持久走大会等に向けて「心はひと～つ！」で目標を各自がもてた。	「関原小!心はひと～つ！」のスローガンが全児童に浸透し、一人一人の児童が輝ける機会を設けることができた。お誕生日給食会は開催を心待ちにする児童が増加。	◎
いじめ防止 不登校対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査の「学校は楽しい」の項目で85%以上の児童が肯定的回答</li> <li>年度末でのいじめ解消率100%</li> <li>不登校児を減少させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月のいじめ対策委員会</li> <li>年3回の生活指導全体会で情報共有と共通対策行動</li> <li>関係機関との連携</li> </ul>	「学校が楽しい」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 92.9%】(R6=93.5%) 1年 94% 2年 94% 3年 92% 4年 87% 5年 95% 6年 95% [保護者] Q:「児童は休まず登校している。」 A:93.9%(R6=94.3%, R5=95.4%) ・毎月の安全指導を活かした。	WEB QUを学年全体で分析対応継続。個々の問題行動や児童間トラブルに対し初期対応を重視し、組織対応する情報共有を徹底。	◎

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自らの健康と体力の向上を目指す児童を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	確実な伸長が経年変化から分析できる。取り組みの成果と言える。	継続は力なり。児童にも教師にも自信とさせたい。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力及び運動能力の向上	・都の体力調査で全項目前年度数値を上回る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキット及び筋力トレーニングの継続</li> <li>・水泳授業の充実、夏季継続</li> <li>・持久走、縄跳び旬間の継続</li> <li>・柔軟性を高める運動の継続</li> <li>・握力向上の遊びの奨励</li> </ul>	<p>◇都体力調査と比較し 上【反復横跳び 立ち幅跳び ボール投げ】 下【握力 長座体前屈 50m走】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長を中心に安全を考慮した水泳指導を継続。児童の泳力向上が図られた。</li> <li>・持久走大会は、着順制が定着し心肺機能を高めた。どの児童も粘り強さが出てきた。</li> <li>・学年に応じた筋力トレーニングや柔軟性を高める運動で児童の基礎体力が向上した。</li> </ul>	経年変化から児童の基礎体力の着実な向上を図ることができた。さらに、鉄棒や雲梯、登り棒や肋木を活用して握力向上を図る。また、狭い校庭だが全力で走ることを推奨する。筋力トレーニングは継続。柔軟性を高める運動をさらに強化していく。	◎
体育の授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査の「体育が好き」の項目で90%以上の児童が肯定的回答</li> <li>・都の体力調査の数値向上(前年比)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等を通じた体育科授業における指導方法の改善と、運動に親しめる環境や用具の工夫</li> <li>・教師へ体育実技研修の継続</li> </ul>	<p>◇都意識調査(肯定回答群割合) 「体育が楽しい」 92.1%(R6=92.4%) 「運動ができるを実感」 85.2%(R6=85.7%) 「運動は大切な」 97.0%(R6=95.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年の水泳、6年ハードル走、2年跳び箱遊びを校長が指導し、各担任をT2として実技指導法を実践の中で学ばせた。</li> </ul>	学年体育により、場や教具の工夫を図ったことは若手教員へ指導法を学ばせると同時に安全面で功を奏した。また、水泳・陸上・器械運動の指導法を伝授できた。	◎
保健及び食育指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査の「食事」「睡眠」等に関する項目で90%以上の児童が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムカードの継続</li> <li>・保健及び食育指導の継続</li> <li>・養護教諭や栄養士と連携した授業の継続</li> <li>・保護者会や各種便りを活用した保護者への啓発</li> </ul>	<p>◇「早寝早起き朝ごはん」(肯定回答群割合) 【全体平均 84.8%】(R6=81.7%) 1年 80% 2年 84% 3年 86% 4年 89% 5年 89% 6年 81%</p> <p>◇保護者 Q:「早寝早起き、朝ごはん」 A=96.4%(R6=96.8%,R5=96.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が一丸となって、遅刻児童や保護者対応に丁寧に取り組んだ。</li> </ul>	児童の自己評価全体で3%ほど上がった。教職員の声掛けの賜物である。家庭生活に起因すると分析する。特に1年は毎年数値が気になり、保護者の意識とのズレが感じられる。	○
校内研修[授業改善] 区小研を模範とした研究の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区調査の「学校の授業は楽しい」の項目に肯定的に回答した児童80%以上</li> <li>・校内研究の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「足立スタンダード」を基本とした授業を基本として職層や経験値に応じた授業力向上を図る</li> <li>・校内研究は、大仙派遣教員2名による講義、演習、実践方式</li> </ul>	<p>◇「勉強が分かりますか」(肯定回答群割合) 【全体平均 92.9%】(R6=91.9%) 1年 89% 2年 93% 3年 89% 4年 93% 5年 90% 6年 93%</p>	大仙派遣教員3名を軸とした校内研修を進めなが、足立スタンダードを基本とした授業展開は各教員著しく向上した。各部区小研の模範とした実践は積み重なった。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ア 学力向上アクションプランについて<重点的な取組事項－1>

##### 【成果と課題】

- ・区調査結果では、全体通過率を前年比で国語 4.8 ポイント、算数 4.9 ポイント上げた。2 教科とも通過率、正答率で区平均を上回り区内 67 校中上位を依然としてキープしている。特に正答率が両教科 80%を越えたことは注目に値する。意識調査からも児童は学習に対して意欲をもち、自分の思いや考えを積極的に伝え合おうとする意識があると分析できる。教師による「わかる」「わくわくする」「わらいのある」の『3つのわの授業』の展開は基礎学力定着につながっている。

##### 【対策】

- ・授業では、ノートへの筆記、授業規律の徹底（はい。立つ。～です）。足立スタンダードを基本とした教師の授業改善工夫。個別復習の強化を図る。
- ・補習学習では、個票分析による抽出児を、東京ベーシックドリルの段階的指導と A I ドリルの活用で習熟を図る。また、補助体制をより手厚くしていく。
- ・個別指導では、「九九」「漢字」「23 区」「都道府県」検定で個々を賞賛して意欲を引き出すとともに単純暗記力を鍛える。漢字は本校統一問題を継続する。

#### イ 豊かな心の育成について<重点的な取組事項－2>

##### 【成果】

「関原小 心はひと～つ！」を柱に、愛校心を醸成するとともにお互いを認め合う豊かな心を育むことができた。特に各種行事や集会では、代表委員会や各委員会児童が元気ある姿で自主性や創意工夫を発揮させた。お誕生日給食会は児童の連帯感をより育んだ。表彰朝会では、自己肯定感と自信を大きく培った。

##### 【課題】

- ・いじめはアンケートや聞き取りから、小さな芽に丁寧に対処すること、誤解を早い段階で解くことを学年単位で心掛け、大きな事案や問題にはならなかった。
- ・不登校問題も、事情がある転入生の対応が難しかった。組織で共有しそれぞれの事例に見合った対応をしながら経緯観察し対応を続ける。
- ・児童アンケートからは、93%の児童は学校が楽しく、相談できる相手もいると答えているが、自己肯定感がもう一步である児童をなんとかかしていききたい。

##### 【対策】

- ・いじめ不登校対策委員会で継続的に問題を共有して組織的に行動していく。また、区関係機関、SC や SSW と連携を図って解決を目指しアプローチを諦めない。
- ・「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」を目標とし、自己肯定感高揚の為に一人一人を賞賛することを継続。表彰朝会でお互いを認め合う大切さを啓発。

#### ウ 体力向上について<重点的な取組事項－3>

##### 【成果と課題】

- ・保護者参観がある体育的行事では学年入替制が定着され混乱なく実施できた。児童の意欲を啓発し、競い合う中で切磋琢磨する力を育めた。
- ・体力調査ではその向上の為に取り組んだ筋力トレーニングの成果は著しく、経年変化比較から顕著に数値として現れた。

##### 【対策】

- ・体育の指導法を見直し、児童の運動量を確保するとともに技能向上の為に、校長主催の校内実技研修及び安全面からも学年体育を今後も継続していく。
- ・基礎体力向上の為に、筋力トレーニングを準備運動の際に取り入れ、特に握力や走力向上は休み時間の活用も視野に入れて工夫していく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

安全で安心な学校生活を送っている本校は、児童の連帯感一体感が構築されています。決して広いとは言えない校舎や校庭の中で各種学校行事の際には、一人一人の児童が輝き頑張る姿を混乱なく参観していただく工夫にご理解ご協力を賜り感謝しております。「関原小 心はひと～つ！」のスローガンは児童に浸透し、各種行事等では必ず盛り込まれ、児童の愛校心が確実に育まれています。地域及び保護者の皆様には、今後とも本校を温かく応援していただきますようお願い申し上げます。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

区の命題である基礎学力の定着と学力向上において安定度をキープしている。区学力調査では両教科とも目標値を大きく超え、上位をキープすることができた。授業について、教師は授業力向上のために教材研修に励み、校内研究授業や小中連携公開授業、教科指導専門員の指導で力量を高めてきた。児童は授業規律を守り、自主学習や A I ドリルの活用で弱点を克服する努力を重ねてきた。環境が人を変える。教師も児童も関原小という伝統ある良き校風を継続してさらに発展させていきたい。